

復活節第5主日

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。ヨハネ13・34

皆さん、キリストの復活を信じた弟子たちは、いつでも、どこでもキリストが自分たちと共にいてくださることを知っていました。キリストがともにおられることを知っているからこそ、そこにキリストと共に生きる人たちの集い、教会ができたのです。この教会共同体は、励まし励まされる共同体です。それを別の言葉で表現すると「お互いに愛し合う共同体」なのです。

イエス様の関心ごとは、この世に残された私たちが互いに愛し合うことにあります。どのようにして愛し合えば良いのでしょうか？イエス様は分かり易いように模範を示してくださいました。それは、師であるイエス様が弟子たちの足を洗ったということです。

本来ならば、弟子たちがイエス様にすべき行為でした。しかし、師であるイエス様がへりくだり、仕えるという模範を示してくださったのです。私たちも神の家族の間で、お互いの足についた汚れを洗い合うときに、互いに愛し合うという命令が全うされると言えます。

当時、イスラエルでは裸足にサンダルをはくという生活スタイルでした。サンダルで1日を過ごしていたので、足は最も汚れが付き汚い場所でした。足を洗う仕事はしもべが主人に対してする仕事だったのです。

足についた汚れとは、霊的に見るならば、救われても尚私たちから離れない罪、弱さ、失敗、未熟さ、そのようなものであると言えます。

教会の神の家族の間で、そのような弱さが目に見えたときに、私たちはどう対応したらよいのでしょうか？ 第一コリント13章に書かれている愛の性質を思い起こして見ましょう。「愛は忍耐強い。愛は情け深い」つまり愛に他の人の弱さを覆う側面があることに気づきます。

兄弟姉妹の失敗や弱さを目にしたときに、すぐに批判したり、裁くのではなく、優しく覆ってあげることが大切です。

教会には本当に様々な背景の人がいます。愛し易い人もいれば、自分の性格に合わず、苦手な人がいることも事実です。しかし、教会の中でどんな兄弟姉妹とも互いに愛し合うのは神様の命令なのです。

最も難しい命令ですが、一番重要なのは、自分自身が変わらなければならないということです。周りの兄弟姉妹が変わることを望むのではなく、自分自身がイエス様のようにへりくだりの心を持つことが大切なのです。

このことのためには訓練が必要です。師であるイエス様のようにするためには1日にしては成れません。葛藤しながら、日々祈りながら愛するための訓練を受け入れましょう。ただ私たちの努力によるのではなく聖霊の働きが兄弟姉妹を実際的な行いを持って愛する力を与えてくださることを信じましょう。